

各党はいま

(月～金曜日午後3:30～4:00)
 (月～金曜日午後10:15～10:45)

永田町の「護憲」勢力が苦戦を続けている。憲法論議の節目の年を、どう戦うのか。

共産党の志位委員長は「楽観はできない」と断りつつ、改憲に立ちはだかる二つのハードルは、なお高いと指摘する。国会議員の3分の2の賛成と、国民投票での過半数の賛成だ。

「改憲勢力にとっても、命がけの戦いになる。とりわけ、国民の過半数が改憲は許さないというところにくれば、これはできない。今その条件は大いにある。自信を持ってやっていきたい」

社民党の福島党首も国内

苦戦の護憲派、世論に期待

外の世論の力に期待を寄せる。「アジアでは、9条を変えて欲しくないという人が多い。世界的にも、武力行使より平和が大事という声が多い。その声を日本の中にこだまのように返しながら、国会の中も変えていく」

「創憲」を掲げる民主党の若手、大塚耕平参院議員は「国会の論議も国民の意識も、機が熟しつつある」と、対照的な認識だ。

「自民党に多い国家主義的な発想に歯止めをかける意味でも、民主党主導で改正論議を進めるべきだ」